

東北地方の工業用鉱物資源調査について

仙台駐在員事務所

東北地方の工業用鉱物資源調査がはじまってから今年で4年目を迎える。調査報告もすでに第2集まで刊行され、近く第3集が出版されることになっているので、今までの経過と成果を概観し、あわせて本調査の意義を紹介したい。

近年各種工業におけるいわゆる非金属鉱物の需要が逐年増大し、また新しい利用分野が次々に開拓されつつあるが、東北地方の非金属鉱物資源調査は石灰石、石膏など一部の鉱種を除いて、著しく遅れている状況であった。しかも東北地方のいわゆる工業用鉱物資源の利用開発のテンポは、最近とくに急速で、新鉱床の開発と未利用資源の実態を明らかにすることが、目下の急務となってきた。このような事情から全国にさきがけて、昭和35年6月、東北地方にある大学、県庁、地質調査所、仙台駐在員事務所、仙台通商産業局、関係業界の協力のもとに“東北地方工業用鉱物資源調査委員会”が発足した。本委員会は『東北地方における工業用鉱物資源の実態を明らかにして、その開発促進に寄与すること』を目的として

1. 工業用鉱物資源の分布状況調査
2. 工業用鉱物資源の埋蔵量算定
3. 工業用鉱物資源の利用調査
4. 調査報告書の編集出版

を当初3年計画で実施することとし、対象鉱種も法定鉱物に限定しない工業用鉱物とし、初年度の昭和35年は粘土類（カオリン、ろう石）、陶石、白土類、けい石、ドロマイト、かんらん岩、蛇紋岩、けい藻土、パーライト、ひる石、海緑石、明ばん石、貝化石について地質調査および資料収集を行ない、その結果は明和36年8月に第1

集として公表した。引き続き行なわれた第2年度では、さらに鉱種に、けい砂、ざくろ石、大理石、スレート、ポゾランを追加し、第2集として昭和37年8月1日に出版された。この2年間に調査・報告された地区は、図に示した通りで、下表に示したように、粘土類、けい石等重要資源の調査件数が多い。第3年度にはこのほか新しい資源として注目される膨張スレート（頁岩）やゼオライト、また東北地方特産の工芸原料としてのにしき石なども取り上げられ、調査対象は逐次拡大され、時代の要望にそうように努力している。

東北地方は古くから金属資源の宝庫として知られ、その生産量は全国の約3分の1に達しているが、工業用原料は鉱量莫大な石灰石、黒鉱、鉱床に伴う石膏、岩手粘土で代表される耐火粘土、板谷のカオリン粘土など以前から盛大に稼行されているものもあるが、大半はきわめて小規模な開発に止まるか、あるいは未開発のものである。工業原料については最近の地質ニュースに特集され、多言を要しないが、本委員会が発足してからの調査結果を総合すると、稼行鉱山では新鉱床の発見などによる埋蔵量の増加が、品質の検討からは新利用面の開発が期待されるなどの成果がみられ、未開発のものについても、本調査を契機として業界の関心が高まり、開発への気運が生れてきたことは大成果といえよう。なお、本委員会はこのような事態に対処して、さらに3ヵ年計画を延長して業務を行なうが、中国地方におけるこの種の調査が開始されたことと相まって、まことに時宜を得たことであり、金属、石炭と並ぶ第3の資源としての工業用鉱物の飛躍的發展に寄与するものと期待される。

鉱種別県別調査件数

鉱種	調査件数								
	35年度	36年度	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	
粘土 陶石 白土類	30	24	5	9	9	13	12	6	
けい石 けい砂	1	14	2	2	2		1	3	
ドロマイト	1	1		7					
かんらん石 蛇紋岩	2	1		2				1	
けい藻土	4	6	1		2	7			
パーライト	6	3	1		1	4	2	1	
ひる石	1	1		1				1	
海緑石	1	2	1			1	1		
明ばん石	1				1				
貝化石								1	
ざくろ石		1		1					
大理石		1		1					
スレート		1			1				
ポゾラン		1						1	

